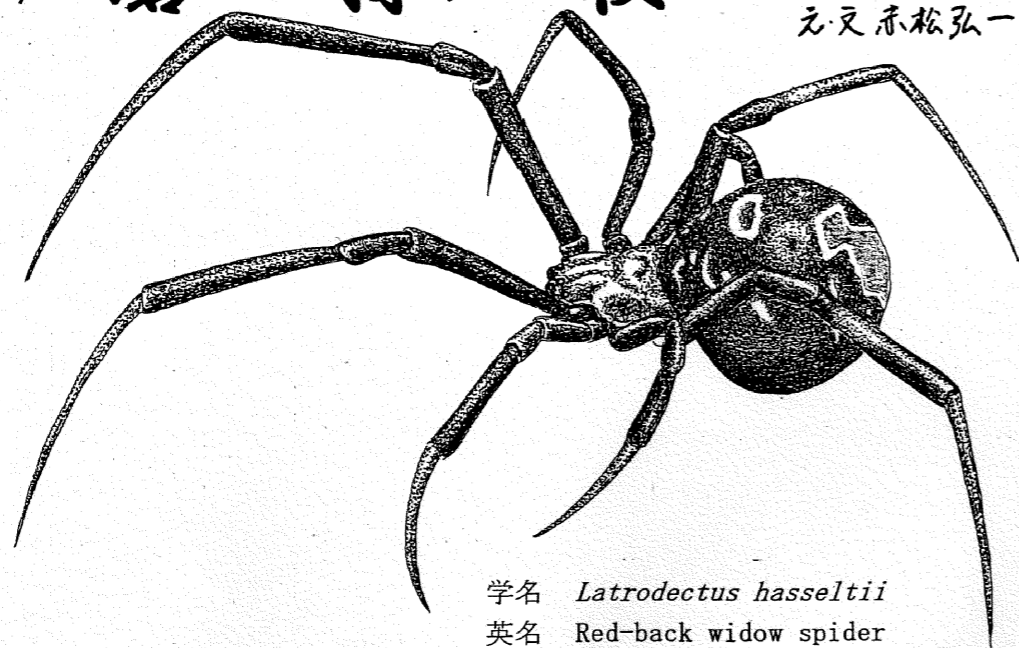


播 磨 探 検

2018.11.4
285号
元又赤松弘一

セアカゴケグモ
(ヒメグモ科) メス 背赤後家蜘蛛
体長 8 mm



学名 *Latrodectus hasseltii*
英名 Red-back widow spider

10月29日の放課後、6年生が大きな青いごみ袋を提げて校長室にやって来た。「セアカゴケグモのようなクモがいました」というので、「どれっ」と袋を開けると落ち葉の間に腹の背面に赤い紋のある黒いクモがいた。「おおっ！まことにセアカゴケグモなり、しかもメス！」覗いていた一同から「おお！」というどよめきが上がる。「では、詳しく調べるので」ということで、クモを空の名刺ケースに入れて校長室に持ち込んだ。

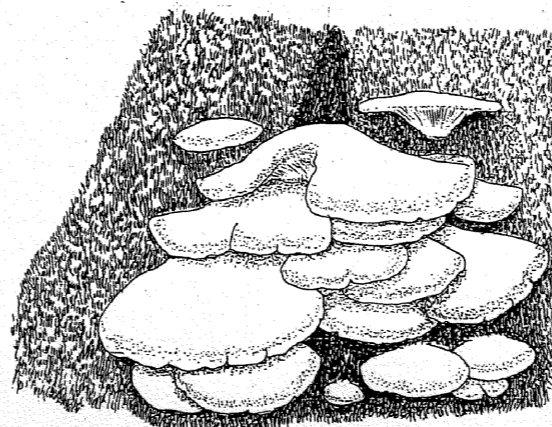
怖れられた毒グモだが、私の気持ちは喜びで非常に高揚していた。思い起こせば10数年前、明石でも見つかったという新聞報道を見た私はこのクモを求めて、冬の曇天の元、藤江周辺の墓場をうろついていた。そして墓場に棲みついた野犬の群れとにらみ合いの末、収穫なく撤退した苦い記憶がある。セアカゴケグモは1995年(阪神大震災の年です)に大阪高石市で初めて見つかると、現在までにはほぼ日本中に拡散している。もともとオーストラリアにいたものが、港から貨物に紛れて侵入したという。毒があるのはメスで、かまれると激しい痛みがあり、まれにこの神経毒が全身に広がって重症化することがあるらしい。

クモは理科室棟西の側溝付近で見つかったらしい。翌日、様子を調べに行ったが、不規則な蜘蛛の巣が側溝の所々に見られたが、クモの姿はなかった。メスは1000個以上の卵を産むらしいので、一匹見つけたら、他にも相当数が棲息していると覚悟せねばならない。

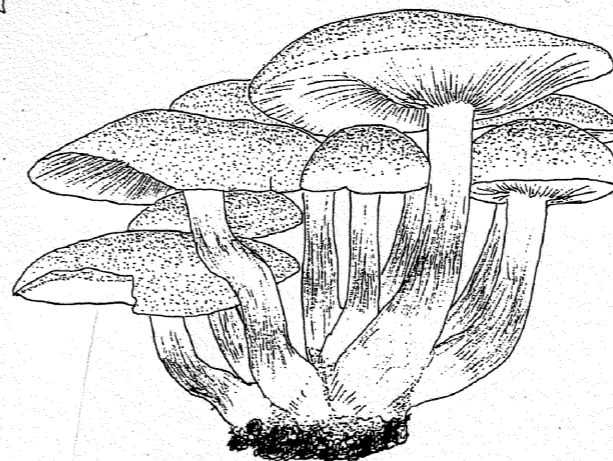
ゴケグモは後家蜘蛛と書くが、英名の「Widow spider」をそのまま日本語にしている。オスはメスに比べて小さく、交尾の後でメスに食われてしまうことが多いため、メスが文字通りWidow(未亡人、後家)になることからきているらしい。ゴケグモに限らず多くのクモやカマキリに見られる生態である。肉食性の生物ではオスは悲劇的な結末が多い。

クモを観察すると、腹部の表面と裏に鮮やかな赤い模様があり、これが背赤の由来である。黒と黄色の縞模様はスズメバチなどでおなじみの警戒色だが、黒と赤というのもなんだか危険を感じさせる色である。「わかってるだろ、俺は(メスだから俺じゃないな)毒を持ってるぜ、触るんじゃねえ、触ると後悔するぜ」ということを無言で表現しているのだ。観察しスケッチした後に、このクモには標本になってもらった。

見つけて 食わざるは 勇なき也 ハタケシメジ?



スギヒラタケ 杉平茸 (キシメジ科)
Pleurocybella porrigens



ハタケシメジ 畑占地 (シメジ科)
Lyophyllum decastes

「なぜない…」男は林間の小路に立ったまま溜息を洩らした。昨年の嬉野台での自然学校では、アマタケ(通称シバハリ)という旨いキノコがたくさん採れたのだ。はっきり言ってウハウハであった。今年の南但馬ではさらに期待したのだが、全く見つからない。妖しい毒キノコすら見つからないのだ。「これでは冬を乗り越えられないぞ」男は焦りを禁じ得なかった。

2日目の早朝、夜明け前から起き出し、宿舎の南の山に入り込んだ男(お察しの通り、私です)は、そこにキノコの大群落を見つけて微笑んだ。それは朽ちたスギの間伐材に発生したスギヒラタケだった。白くて薄いキノコが十重二十重になっている。スギヒラタケは以前食用にされていたが、平成16年以降中毒する人が現れたため、毒キノコとして扱われている。しかし「食べてみにゃわからん」という合理的な考えに基づき、私はこの美しく旨そうなキノコを両手に持てるだけ採取した。

その翌日、今度は飯盒炊さん場において、ついに私は見つけてしまったのである、杉木立の間の林床に薄茶色の大きなキノコの群落があるのを。それはハタケシメジらしきキノコだった。2011年の11月に加古川市の公園で見つけて以来の出会いだった。私は手ごろな大きさの株を3つほど採取した。ハタケシメジは、秋に公園や畑などに発生する旨いキノコである。地下に腐木な

どが埋まっていると、そこに発生するらしい。しかし非常によく似た「クサウラベニダケ」という毒キノコがあり、同じ時期に同じような場所に発生する。明石公園ではよく見かけるが、こいつを間違えて食べて中毒する例が後を絶たないという。

今回見つけたものがハタケシメジだという確信はない。柄の中が中空でないこと、傘の裏が白いことなどから「ほぼハタケシメジで間違いはない…」なと思いつつも声が小さい。こういう場合は食べてみればはっきりする。食べて中毒すれば毒キノコだ(そりゃそうだ)。

後日冷凍していた一本を試しに炒めて食べてみたが、一晩が経過しても悶え苦しむことなくきちんと目覚めたので、どうやらハタケシメジで間違いのないようだ。冷凍室の残る3株は炒め物やナベに入れて美味しくいただく予定である。

ちなみに持ち帰ったスギヒラタケだが、毒きのこだといわれているのに食べて中毒した場合に「あいつは本当にアホですな…」といわれるので、涙をのんで廃棄した。